映像新聞

平成27年（2015年） 1月12日 第2175号

株式会社 映像新聞社
Weekly THE EIZOSHIMBUN
(VISUAL COMMUNICATIONS JOURNAL)
〒112-0006 東京都文京区小日向1丁目24番8号エイゾービル
電話：(03)3942-2161(代)／ファクス：(03)3942-2581
昭和42年1月25日 第3種郵便物認可 郵便振替：00140-0-65786
1部600円、年間購読料26,000円（税別）

©映像新聞社
毎週月曜日発行（月4回発行）

ビジュアルメディアExpo開催

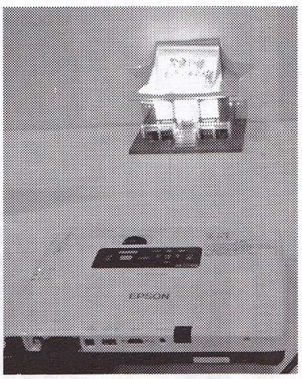
最新の映像表現技術を公開

最新の映像表現技術を紹介する「ビジュアルメディアExpo2014」が、2014年12月3－5日に横浜市西区のパシフィコ横浜で開催。同時開催の「国際画像機器展2014」を含め、3日間で1万5000人余りの来場者があった。最先端表現技術利用推進協会（略称＝表技協）では、展示会場内に多くの拠点を設け、プロジェクションマッピング（PM）技術をはじめとした最先端表現技術をアピールした。

表技協 マッピング実例など展示

表技協は、最先端の「表現技術」を横断的に扱う目的で13年秋に設立された一般財団法人。同協会会長の町田聡氏（アンビエントメディア代表）は「表現者が最先端の技術を使いこなすための支援団体」と説明する。

町田氏は「表現技術とは、メッセージを伝えるために使われる技術や自己表現のために使われる技術を指す。表技協では、これらの情報環境において、積極的に最先端の表現技術を創造し使いこなすことを目指して活動している。そのためには既存の表現技術の普及だけではなく、未知の表現技術も含めたさまざまな表現技術の利活用を積極的に推進する。特に表現者であるアーチストやクリエイターなどの参加を重視しており、それをメーカーや技術開発する方々にサポートしてもらえるような環境を提供することを目指す」と話す。


表技協ブースで展示された円融寺の3Dミニチュアモデル

表技協のブースで展示したのは、14年12月31日の「円融寺プロジェクションマッピング奉納」をPRするコーナー。12、13年に実施した円融寺PMの模様を放映したほか、フォーラムエイトの協力を得て同社所有の3Dプリンターで作成した円融寺のミニチュアモデルを展示。この3Dモデルを使って、事前にマッピングの十分な検証が可能なことなどを分かりやすく説明した。

4Kゾーン横の映像作品上映コーナーでは、芸能人たちがそのジャンルのプロに挑むテレビ番組『バンクルワセ』（14年10月6日、フジテレビ系）で紹介された、マッピング作品をエンドレスで上映。この番組のマッピング対決では、タレントの小籔千豊と蛭子能収が「トイレ」をテーマにオリジナルの作品を制作、東京駅のマッピングなどを手掛けたプロの村松亮太郎氏（NAKED Inc.代表）に挑戦した。

展示会では、番組内で小籔千豊などが制作したトイレのマッピングに制作協力した映像作家の吉川マッハスペシャル氏、阿部信明氏らの作品なども上映した。この上映では、NECディスプレイソリューションズ製の高輝度プロジェクターを利用。送出システムはコロレーが協力した。

そのほか、町田氏のS3D（立体視）マッピング作品やコローレの浦島啓氏の作品「S3Dマッピング、浦島太郎の飛び出す絵本」などの作品も上映された。

表技協事務局を務めるフォーラムエイトの太田夏花氏は「新しい最先端技術を厭便してのコンテンツ制作には、各分野の総合力が必要。そこで、関連分野の枠を超えて英知を集結することで、これまでにない新しい表現方法を構築し広く一般に普及啓蒙して、人材の育成を図りたい。多様な分野の連携で新産業も創造されると思う。各業界の垣根を越えた組織体は、表技協が国内初だろう」と期待を込めた。

裸眼3D、高精細関連製品も

「ビジュアルメディアExpo2014」では、多彩な新技術・新製品が公開された。

●裸眼3D

文教大学は裸眼3D（立体視）コンテンツを展示した。

文教大学情報メディア表現学科教授の高田哲雄氏は「長年、デジタルコンテンツおよび3DCGを研究している。今回はボディバランスインストラクターの唐澤映子氏のアドバイスを受けて、縦型の3Dコンテンツを制作した。縦型ディスプレーであれば、90型程度の大きさで等身大の映像が表現可能だ。将来裸眼3Dが普及したときにキラーコンテンツとなる可能性もある」などと説明した。

高田教授と裸眼3Dコンテンツ

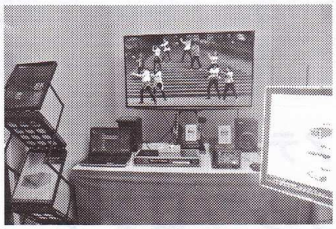
●高精細カメラ

西華デジタルイメージは、米レッド・ディジタル社製の高精細カメラを展示した。

同社映像システムグループコンサルタントの清水孝欣氏は「当社は2012年に西華産業の100%子会社として、主に放送映画用デジタルカメラやその周辺機器の販売会社として誕生した。高解像度4Kカメラとしては世界初となるレッド・ディジタル社製REDONEをリリースし、放送映画関係をはじめとした数多くのユーザーに利用されている」と話す。

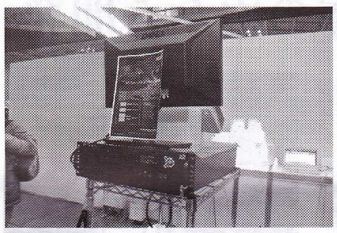
西華デジタルイメージのブース

4Kなど高精細時代においてもレッド製品は常に市場をリードする存在として、商品ラインアップを拡大していくという。


計測技術研究所の4Kソリューション

●4K関連製品

計測技術研究所は、4K関連製品を主力に出展した。同社のビジュアルウェア事業部営業部リーダーの田端宏至氏は「11月のInter BEEでは近未来の8Kソリューションを中心に訴求したが、この展示会では実用的な4Kのソリューションを中心に展示した。


テクノロジー・ジョイントが出展したマッピング用メディアサーバー

●メディアサーバー

テクノロジー・ジョイントは、プロジェクションマッピング用のメディアサーバーを展示した。

同社事業開発部3課の刈谷剛敏氏は「当社の新製品として、マッピング用のメディアサーバーを展示した。マッピング市場は年々拡大しており、メディアサーバーの需要も増している。より使いやすいメディアサーバーとして市場に訴求する」と話した。

放送関係者というよりもクリエイターなどの来場者が多いこの展示会では、すぐに使える4Kをアピールした」と説明した。

平成27年1月12日発行の映像新聞14ページに記事として掲載されました。